

本体からの手軽な操作で配信サービスによる動画視聴にも新対応。元々備える映像美のポテンシャルを引き出し、ファミリーカーのエンタメ機能を大きく拡大。同乗者みなに恩恵をもたらす。

Panasonic Strada F1X Premium10



動画配信への対応は、もともと待望視されていたものでもあった。

「ネット動画の機能をどういう方向性にすべきかで、社内でもいろいろな議論がありました。半年ぐらいいは色々と繰り返しだと思います。通常我々の開発ですと、大体1年ぐらいいの期間となりますが、今回は新しい機能としてカープレイやアンドロイドオートにも対応しましたので、これだけの機能を入れるのはかなり力が入りましたし、楽しかったですね(森田氏)。

チャレンジゆえに、試行錯誤が続いた。
「技術的に言うと、システムの制約も



多い中、新しい機能にも高いパフォーマンスを成立させたところが一番苦労したところだと思います。そもそもどういう方向性で仕上げるのかという点で議論がありましたので。機能の仕様を決めてまず作り、それをまた直しという作業を繰り返しました(森田氏)。

従来機能もおろそかにできない。
「やっぱり動画を再生するためには、たくさんさんのパワーとメモリーを消費します。ナビを動かしながら、そこをどうやって実現していくのが難しかったですところ。動画を再生してるからといって、ナビのパフォーマンスが落ちてしまつては困りま

「画質だけではなく、音の質、ストレージは音の匠というプロが監修した高音質サウンドシステムを搭載しています。画質だけではなく、音に

多大な期待に添う 果敢なトライ

すから(森田氏)。

それでも、チャレンジしないわけにはいかない。

「今後どういう機能が求られているかというところを定期的に調査しているんですけども、その中で、動画視聴に関してはネット動画の機能が欲しい

「ソフト的には現状のシステムをフル活用し、プロとして自信をもってお勧めできると言えるほど高い完成度になっています」

元々持ち合わせていた高性能ディスプレイも動画視聴でより活きる。
「有機ELを採用し、外光の反射を抑えるなどクルマ用に最適化したディスプレイです。タブレットなどで観よりも、画質の面で大きなアドバンテージがあると思っています(山岡氏)。

「画質だけではなく、音の質、ストレージは音の匠というプロが監修した高音質サウンドシステムを搭載しています。画質だけではなく、音に



パナソニック
オートモーティブシステムズ株式会社
インフォテインメントシステムズ事業部
ソフト開発担当
森田嘉伸氏

「9インチ、7インチの新製品もネット動画などのオンライン機能はフラッグシップ10インチと同様です。こちらにも注目頂きたいですね」



パナソニック
オートモーティブシステムズ株式会社
インフォテインメントシステムズ事業部
マーケティング担当
山岡真氏

「個人的な思いでもありますが、お客様にとつてより使いやすく、操作しやすくというところに関しては、もっと良くできるところがあるんじゃないかと思っています(山岡氏)。

「確かにそうですね。ユーザーの声を聞いてよりよく使えやすいようにしていきたいという思いは私も一緒です(森田氏)。

用品開発



バックステージ